

## 平成 30 年度 第 1 回女性活躍推進協議会情報共有会議 議事要旨

日 時 平成 30 年 5 月 9 日 (水) 午後 3 時 00 分～5 時 00 分

場 所 横浜市庁舎 2 階 政策局会議室

出席者

委員

涌井委員 (神奈川県経済同友会)

上野委員 (神奈川県中小企業家同友会)

坂井委員 (横浜貿易協会)

青井委員 (横浜銀行協会)

今村委員 (横浜港振興協会)

野路委員 (横浜青年会議所)

川名委員 (横浜市男女共同参画推進協会)

齋藤委員 (横浜市政策局女性活躍・男女共同参画担当理事)

事務局

政策局男女共同参画推進課 課長 山本  
 担当係長 平中  
 職員 田村

欠席者

大隅委員 (横浜商工会議所)

二見委員 (神奈川県経営者協会)

上野委員 (神奈川県中小企業家同友会)

アキレス委員 (横浜市男女共同参画推進担当参与)

次 第

- 1 各団体情報共有
- 2 議題 平成 30 年度の活動について (案)
  - (1) 分科会の活動について
  - (2) 女性の就業ニーズ調査の活用について
- 3 平成 30 年度横浜市予算概要について
- 4 各団体からのお知らせ

### 議 事 要 旨

#### 1 各団体情報共有

- ・別紙「調査票まとめ」参照
- ・芦澤委員：女性活用に対する期待から、社外取締役オファーが複数あり。

#### 2 平成 30 年度の活動について (案)

##### (1) 分科会の活動について

##### 【製造業界分科会】

- ・製造業での女性活躍に関する成功事例を紹介してはどうか。
  - ・企業側ではなく、これから働く側に啓発してはどうか。
- 現状を変えるには、採用から考えなければならない。  
 メーカーは理系女子を必死に採用しているが、不足している状態。入口から増やしていく必要がある。

### 【倉庫業界講演会】

- ・助成金活用方法は、他の業界でも知らない割合が高いと予想される。他業界でも展開しては。
- ・助成金の中には育児休業等支援コースがあるが、中小企業にとっては、休業の方が離職されるよりも負担が大きい。

### (2) 女性の就業ニーズ調査結果について

- ・17 ページの「働き始めることができた理由」では、正規社員は「以前に技能や実績を積んでいること」「取得している資格を活かした」を挙げている割合が高い。これまでの実績を再就職に活かす「経験・実績のポータビリティ」が重要と言える。
- ・一旦離職して家に入ると、女性は自分の能力に自信を持てなくなる。
- ・女性のニーズを一括りにすることは難しく、年収別でもニーズは異なる。
- ・調査結果の数値はどれも妥当なものである。女性活躍が重要と分かっているけど、ではどうすればいいかを示すことが重要である。
- ・チラシ以外の活用方法も重要。例えば、雑誌編集者とタイアップした情報発信など、第三者による発信が有効である。
- ・労働行政とタイアップして効果的な施策が検討できないか。
- ・M字カーブが改善されているならば、女性の就業ニーズも少なくなっているのか？  
⇒改善されているのはパートなど非正規であり、正規雇用へのニーズは依然として高い。
- ・20 ページの「経営層・管理職になりたいか」では、なりたいたいと思わない理由が何か知りたい。  
⇒仕事と家庭の両立が難しいことが大きい。また、目標となる楽しそうに働いている女性管理職が少ないことも関係しているのではないか。

※事務局より

ニーズ調査結果活用方法について、協議会で再度議論していただきたいため、今年度も協議会開催回数は3回とさせていただきます。

## 3 平成 30 年度横浜市予算概要について

質問なし

## 4 各団体からのお知らせ

### 【男女共同参画推進協会】

2016年3月発行「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告書」の関連で、NHKから取材を受け、6月21日（土）21時からの「NHKスペシャル～ミッシングワーカー～」で放映予定。